



てっぺん祭り会場のステージ(笠踊り)

村木小児童を迎え、第二小児童の越中踊りが開花

見せた！先人ルーツの「せり込み蝶六」

ふるさとのルーツを伝統芸能で継承しようと、第二小の児童が取り組んできた越中踊り「せり込み蝶六」が、3年目の今年、魚津市立村木小の児童を本町に迎えて大きく成長し、見事に開花しました。大舞台、てっぺん祭りで見事に踊り切った児童たちは、習った踊りに大きな自信ができた様子。町の代表的な伝承芸能に大きく育てよう、と新たな目標も出来ました。先人の文化を伝承する第二小児童たちの「越中踊り子供保存会」を中心にした活動は、さらに大きな活躍の場が待っていそうです。

育った「せり込み蝶六」—そして
新たな伝承へ

さと学習をしていた第二小で10年前、越中踊りの継承を目的に「越中踊り子供保存会」が生まれました。

8月26日、第二小10人と村木小9人の両校児童、そして卒業生の東川中の1年生1人を加え、20人が東川町農協主催の「てっぺん祭り」会場で晴れの舞台に登場しました(5ページまち・タウン参照)。

合同踊りの衣装は、村木小の女子がかすりの着物、第二小の児童は「越中踊り子供保存会」の名入りはつぴ姿。舞台音頭に合わせて「せり込み蝶六」の扇振り(せんぶり)、基本形の手踊り、花輪踊りを加え、みごとにそろった舞台踊りを披露しました。約10分間のステージ。会場は身じろぎもせずに見入る姿でいっぱい。魚津市から訪れた小さな親善使節に大きな拍手が沸きました。

第二小校区は、

1895(明治28)年、町内でもっとも早く富山県団体20戸が入植し、原生林に鎌(くわ)が入った開拓の中心地区でした。岐登牛地区にある富山神社は、当時の望郷の念の強さを忍ばせています。先人のルーツ、富山県の伝統文化を学ぼう。ふる



第二小体育館で行われた特訓練習

富山県各地の越中踊りを調べ、3年前訪問したのが村木小でした。魚津せり込み蝶六保存会元会長の先名進さん(63)の指導を初めて受けました。大歓迎を受け、村木小の児童と一緒に魚津祭りで街踊りにも参加しました。

先名さんは、魚津市内で理容業のかた